

## 令和 4年 小金井史談会 講演会

# 「江戸の建設と服部半蔵」

服部半蔵正成(1542-96)は、\*稗史では伊賀忍者の頭として有名であるが、徳川家康に仕え戦功を立て「鬼半蔵」と称えられた。天正7年(1579)家康が長男の信康を切腹させたとき検使となり、天正10年の伊賀越えなど諸方で活躍し、伊賀者を支配した。のち家康は、半蔵の旗指物を徳川軍団の使番の旗として採用した。使番とは戦場で本陣の命令を前線に伝え、ときに前線の指揮を執り、また情報収集や分析をする参謀である。半蔵は使番として活躍し、家康の耳目となっていた。その活躍は、配下の伊賀者の情報収集に支えられていたと想像できる。

伊賀者は情報収集に従事していただけではない。正成の子服部半蔵正就は、徳川秀忠の鉄砲奉行であった。このことは、配下の伊賀者が鉄砲衆として編成されたことを窺わせる。

半蔵の屋敷があったという江戸城半蔵門は、甲州街道方面に開いている。四谷周辺の甲州街道沿いには伊賀者・鉄砲百人組などの屋敷が集中していた。城下町の多くは、街道沿いの町はずれに足軽町を置いている。進軍のとき軍勢の先頭を行くのが足軽鉄砲隊だからである。江戸城下の成立期に、服部半蔵はこうした部隊を支配する立場にあった。

四谷は江戸城より標高が高く、近世前期まで外濠もなく防御の弱い地域であった。この方面の防御にも、伊賀者・鉄砲組を率いた服部半蔵が関わっていたのであろう。服部半蔵は、幕府草創期の徳川軍団の中で重要な役割を担っていたのである。 \*稗史(はいし)とは、正史に対して公認されていない民間の歴史の意

### 講師 根岸茂夫先生 (小金井市史編纂委員長・国学院大学名誉教授)

#### 【プロフィール】



国学院大学文学部史学科名誉教授、博士(歴史学)  
日本近世史(政治史・武家社会史・農村史・国家)専攻  
著書『近世武家社会の形成と構造』『大名行列を解剖する—江戸の人材派遣』など

日時 令和4年7月4日(月)10時～11時半(開場9時半)

会場 宮地楽器ホール 小ホール 参加無料

対象 会員 及び 小金井市近郊の在住・在勤・在学の方

定員 100名予定(定員超過の場合は抽選、落選の方のみ連絡します)

後援 小金井市・小金井市教育委員会

申込先 会員：地区役員迄 会員でない方：嵯峨山(090-4078-5792)迄  
締切り6月24日(金)\*史談会ホームページお問合せで申込みます。氏名、町名、電話ご記入下さい。

7/1～4、宮地楽器ホールロビーにて「歴史見学写真展」を開催